

# G・T通信

G・T通信のG・Tとは「グリーン・ツーリズム」の略。「グリーン・ツーリズム」とは、農山村に滞在し、農業漁業体験を楽しみ、地域の人たちと交流を図る余暇活動。

# 農業ってからこいいい!

## しらかわ広域連携グリーン・ツーリズム協

### 体験から魅力知る

#### 風評被害と果敢に闘う

「しらかわ広域グリーン・ツーリズム協議会は15年前に発足、県南地域に都会の人を招いて、田舎でしかできない農業体験をしてみようという。東日本大震災以降は併せて、県産農産物の安全性を訴え、風評被害をなくそうと努力している。

同協議会は、滝田国男さん(62)を会長に県南地域の白河市、矢祭町、鮫川村などの農家12、13軒で結成している。このうち7軒が農家民泊を受け入れている。地道な活動が実って、震災前の2



滝田さんが社長を務める農業法人の畑でネギの植え付け体験＝白河市表郷

### 地域に貢献、滝田さん

滝田国男さんは、現在62歳。明るい性格で、仕事に対して熱い思いを抱いている人にみえた。滝田さんは、平成15年から、平成17年まで、表郷の最

009(平成21)年は5167人、直前の2010年でも4970人が、グリーン・ツーリズム体験に訪れた。

しかし、拡散された放射性物質の影響を恐れ、「福島県の農地や農産物は危ない」とされ、同協議会のグリーン・ツーリズム体験者は、震災発生時の2011年はビ

### 炎天下、畑にネギ植え

滝田さんの会社の畑では、わたしたち記者5人はグリーン・ツーリズム体験でネギ植えをした。30度以上の炎天下の作業は、とても暑く汗が滴つ



苗植えから2カ月後収穫されたネギ

た。ネギの扱いも難しく、折れないようにするのが難しかった。だが、土を掘ってネギを植えるのが楽しかった。



熱い思いを語る滝田さん

後の村長を務めていた。今は、しらかわ広域グリーン・ツーリズム協議会の会長を務め、表郷ミニバスケットスポ少や、白河地区交通安全協会など

1000人台で推移、なかなか体験者数は回復しなかった。滝田さんらは都会で話を聞くと、震災原発事故のイメージは発

### 8年経った福島も知って

震災から3か月後、グリーン・ツーリズムを訪れた都会の人たちが、白河の子供たちがマスクを着用していないことに驚

「思っていた福島と違う」とほとんどの人が声をあげるという。8年前の「防護服を着て避難」の福島のイメージのままというのだ。ニュース量

最後に滝田さんは「農業は大きな変化の時代。ベンチャー企業のように、若い人がどんどん起業してもらいたい。農業が憧れの職業になる日が来る」と農業の未来へ熱い思いを語った。



### 私たちが編集しました

- 石川 つぐみ (白河二中)
- 青柳 龍玄 (西郷一中)
- 羽賀 太飛 (本郷小)
- 齋藤 怜奈 (坂下南小)
- 西山 璃優 (矢吹小)